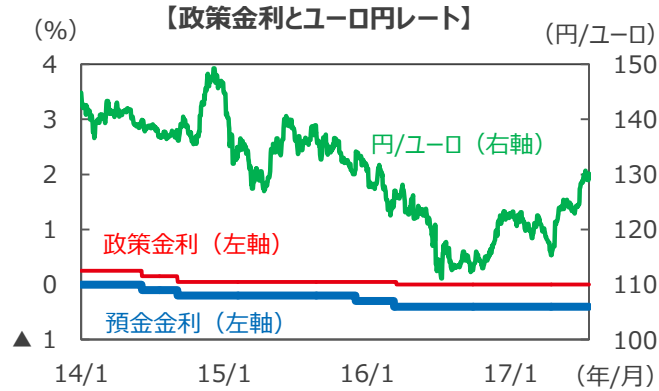


今日のトピック ECBの金融政策 (2017年7月)

金融政策は維持、今秋にも量的緩和縮小を発表か

ポイント1 政策金利を据え置き 量的緩和策も継続

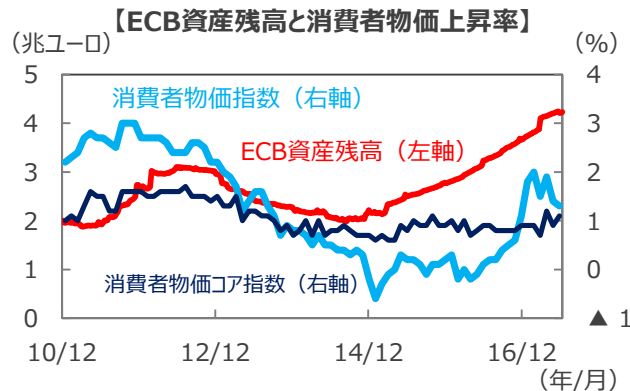
- 欧州中央銀行 (ECB) は7月20日の理事会で、政策金利、中銀預金金利 (金融機関がECBに余剰資金を預け入れた際に適用する金利) をそれぞれ0.00%、▲0.40%に据え置きました。
- 量的緩和策である資産購入プログラム (少なくとも2017年末まで合計で月600億ユーロの国債や社債などを購入する方針) も維持しました。



(注) データは2014年1月1日～2017年7月20日。
政策金利はMain Refinancing Operations 金利。
預金金利はDeposit Facility 金利 (翌日物)。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 フォワードガイダンスに変更なし ユーロ高で物価は下振れリスクも

- 将来の金融政策に対する考え方を示すフォワードガイダンスは「資産購入プログラム終了後もかなりの期間、政策金利が現状水準で推移することを期待する」とし、前回から変更はありませんでした。
- ユーロ圏の6月の消費者物価指数は前年同月比+1.3%と、5月の同+1.4%から鈍化しました。これはエネルギー価格の下落が主因であり、インフレ率は今後数カ月は現状の水準で推移すると見込まれます。ただし、足元のユーロ高を受けて、物価見通しは下振れするリスクも出てきました。



(注1) ECB資産残高は2010年12月31日～2017年7月14日 (週次)。
(注2) 消費者物価指数は2010年12月～2017年6月 (前年同月比)。
消費者物価コア指数は全体からエネルギーと食品を除いたもの (同上)。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 金融緩和は継続、今秋にも 量的緩和縮小が発表される見込み

- ドラギ総裁は会見で、今秋にも量的緩和プログラムの見直しを行うと示唆しました。金融市場ではECBの量的緩和縮小を見込んでユーロ高となっていることもあり、市場が見込んでいた早期の引き締めについてけん制したものと考えられます。
- 今後は、8月下旬に米ジャクソンホールで開催される経済シンポジウムで、ドラギ総裁が量的緩和縮小の発表時期を明言するかが注目されます。一方政策金利は、ECBが示すフォワードガイダンスから判断すると18年末まで据え置かれると予想されます。

ここもチェック! 2017年6月29日 最近のユーロ圏経済・市場動向 (2017年6月) 2017年6月29日 欧州の『選挙イヤー』、上半期をプレイバック!

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。